

# 1 活力を生み出すまちづくり

## 1-1 農業の振興

### ■ 現況と課題

#### ○ 農業構造

##### 1. 担い手の育成・確保と経営の体質確保

近年の農業情勢は、農作物価格の低迷や農家戸数の減少、後継者不足や就業者の高齢化など農業生産構造の脆弱化や農村地域の活力低下が懸念されています。また、国においては「食料・農業・農村基本計画」に基づき、品目横断的経営安定対策や農地・水・環境保全向上対策の実施を平成19年度に控え、わが国の農業政策は戦後最大の転換期を迎えています。

本町においても農業者の高齢化、後継者不足による農業人口の減少や、生産技術の不均衡など、経営力不足による農業生産基盤の脆弱化が懸念されています。【1~3】

一方で、近年のテレビ番組や雑誌などで「田舎暮らし」や「自給自足生活」が取り上げられ、道内外からの新規就農相談件数は増加傾向にあります。

また、国では意欲と能力のある「認定農業者」に集中的な農業支援策を講ずる方針であることから、本町においても地域が一体となった担い手の確保・育成、新規就農者対策の強化が求められています。【4】

##### 2. 農産物の安定生産に向けた土地基盤整備

農業の生産基盤となる農地、とりわけ地区内耕地面積の93%を占める牧草地については、「強い馬づくり」や自給飼料主体型畜産を推進する上で、最も重要であるが、平坦地が少なく急勾配での農作業による機械作業の非効率性を招いています。また、草地更新の遅れによる地力の低下、排水不良による生育障害や生産物の収量低下が見受けられ、効率的な土地基盤整備が求められています。【12】

##### 3. 環境と調和した農業・農村の持続的発展

環境に負荷を与えないクリーンな農業の環境づくりは、環境世紀と言われている今日において重要な課題の一つです。

その中で、農業者から排出される廃プラスチックの処理施設が現在、町内になく、農家庭先での埋立て・焼却などの不適切な処理が懸念されることから、その対応について早期に解決する必要があります。

また、馬・牛などの家畜から排泄される糞尿についても、平成16年11月施行の家畜排泄物法により、野積みによる土壌への浸透など、環境負荷を与える不適切な保管が禁じられ、適切な対処を進める必要があります。【12】

#### 4. 地産地消と食育の推進

近年、健康で豊かな食生活の実現に向けて、安全で品質の良い農産物をつくる生産者を消費者が支えるスローフード運動が注目されています。

本町においても地元農産物を町民へ積極的にPRすることにより、地域農業への理解・関心を深め、生産者と消費者が一体となった地域農業の振興を目指す必要があります。

また、家庭や地域など様々な所において食に関する知識を学び、生涯を通じて健全な食生活を営む能力を身につける「食育」に対する社会的ニーズが高まっていることから、学校給食での地域食材の活用や学校給食の場を活用した児童・生徒の食への理解促進などの取り組みを推進する必要があります。【1】

#### ○軽種馬

##### 1. 生産・経営基盤の強化

本町の基幹産業である軽種馬生産は、競馬の国際化の進展、長引く景気の低迷やレジャーの多様化などの影響により、中央・地方競馬の馬券売上げの減少、競馬賞金の減額、産駒の販売低迷から、生産者の経営は極めて深刻な状況にあります。

現状の軽種馬経営では、生産基盤を支える放牧地の狭隘、草地改良の整備不足、繁殖牝馬更新の停滞、飼養管理技術の遅れによる産駒の弱体化、受胎率の低下など、強い馬づくりを実践していくための条件整備が停滞している状況にあることから、これら条件整備が求められています。【12】

また、経営面では、零細農家による経営が大半を占め、資本力に限界がある中で、既往負債による新たな与信が困難な牧場が多く、生産基盤などの条件整備を実施できないことや軽種馬に特化した経営構造から確実な収入源の確保ができないなど、経営の悪化を招いており、抜本的な経営改善に取り組む体制が求められています。【34】

##### 2. 北海道競馬存続運動の推進

競走馬の流通を支える地方競馬、とりわけ北海道競馬は馬産地にとって重要な役割を果たし、北海道財政にも大きく寄与してきましたが、平成4年度以降、赤字経営に転落し、極めて厳しい運営となっています。

本年度から当面の継続期間を3年間としましたが、存続の条件として「赤字額の半減、単年度収支の均衡の見通しを得ること」など、高いハードルを設けられています。

北海道競馬の廃止は、他の地方競馬への影響も大きく、仮に廃止となれば他の地方競馬も相次いで廃止に向かうことが予測され、ますます競走馬需要の停

滞が加速されます。

このような中、これまで以上に生産者団体をはじめとする関係団体が一丸となり、北海道競馬存続に向けた取り組みの強化が求められています。【12】

### ○酪農・肉畜

本町の酪農経営は、比較的中小経営規模であり、年々減少傾向にあります。

生産面では、全体的に乳質の悪化が見られ、改善が求められています。経営面では、乳飼比が高い農家が見られ、所得低迷が続いており、コスト低減に向けた取り組みが必要です。また、労働力不足、自力での休日の確保が困難となっている状況もあり、組織的な労働力や休日の確保が求められています。

【1～3】

一方、肉用牛経営は、近年軽種馬生産をはじめとする他作目との複合化により急激に伸びています。繁殖経営が大半を占め、現状では市場価格が高値取引となっていますが、米国産牛肉の輸入再開などによる影響が懸念され、より一層の良質な生産体制と低コスト生産による経営の安定化を図ることが求められています。また、肥育経営については、数戸の農家で取り組まれています。今後繁殖牛の改良増殖、地域ブランド化を図っていくため、肥育事業への取り組みの拡大を図るとともに、肉用牛との複合化による新規農家が増加しており、飼養管理技術の普及体制を整備する必要があります。【4～6】

近年、新たな畜産として、羊肉経営なども始められており、本町の新ブランドとして期待されます。

### ○耕種

本町のいちご生産は、雪が少なく温暖な気候特性を活かすことのできる作物として、近年、生産者が増加しており、グリーンサポートひだか東によるハウス団地の整備など、新たな地域振興作物として期待されておりますが、現状、栽培技術、産地に適した品種の選定や共同出荷体制が確立されておらず、推進体制などの早期確立が求められています。【1】

アスパラガス生産については、軽種馬生産をはじめとする複合作目として取り組む農家が増加しています。今後、安定した販売流通を確立していくために生産拡大していく必要があります。【2】

花卉生産については、年々生産が増加していますが、近年、地域全体的に連作障害などの問題を抱えている状況にあり、効果的な土壌改良などの対策が求められています。【3】

## ■今後の方向性

### ○農業構造

#### 1. 担い手の育成確保と経営の体質確保

1 農業経営支援センターが中心となり、意欲と能力のある地域農業者を担い手（認定農業者）に誘導することにより、地域農業の持続的発展を目指します。【①】

2 農業就業人口が減少する中、優れた経営センスを持つ農業後継者の育成確保は本町農業の発展の根幹をなすことから、農業後継者団体への活動を支援します。【②】

3 安定的な農業経営が図られるよう、農業関係資金制度の利用促進、低金利資金の融通など、農業経営の基盤強化対策を推進します。【③～⑥】

4 増え続ける新規就農希望者の確保は農業就業人口が減少する中、本町農業の発展には欠かせないことから、各種支援策を講じるとともに、行政、JA、普及機関などが一体となり設置した「新規就農支援センター」を中心に、迅速かつ的確な対応に努めます。【⑦～⑨】

#### 2. 農産物の安定生産に向けた土地基盤整備

1 品質の高い農作物の収量増加、強い馬づくりの基本となる草地改良を図るため、中山間地域総合整備事業などの道営土地改良事業を活用した暗渠排水、客土、区画整理などの面整備や明渠排水整備を実施します。【⑩】

2 農業用水を適切に供給するため、基幹から末端まで一貫した用水供給機能・排水条件を確保し、農業水利施設などの長寿化を図るため、地域と一体となった適切な保全管理を推進します。【⑪～⑬】

### 3. 環境と調和した農業・農村の持続的発展

1 農業者から排出される廃プラスチックのリサイクル処理、家畜糞尿の適正管理や有効利用に向けた指導、処理施設の整備など環境に負荷を与えないクリーンな農村環境づくりを推進します。【17】

2 地域住民による町道沿いへの花の植栽活動、学童の米作り体験学習、人々に潤いと安らぎを与える美しい景観の形成など、農業・農村の持つ多面的機能を発揮するための保全活動を推進します。【16】

### 4. 地産地消と食育の推進

1 地場産品市などで地元の安心・安全な農産物を町民に提供することにより、生産者と消費者が食を通じて一体となった地域農業づくりを目指すほか、学校給食で地場産米や地場野菜を積極的に使用し、学童の食生活への関心を高め、生涯を通じ健全な食生活を営む能力を身に付けるための食育を推進します。【18】

## ○軽種馬

### 1. 生産・経営基盤の強化

1 経営農地の拡大、昼夜放牧の実施、中期育成の充実、繁殖牝馬群の整備など個別経営では解決が難しい課題が多いことから、生産、育成部門など経営形態の組織化・分業化を推進します。【①】

2 これまで生産者個々の管理技術によって経営が行われてきましたが、外国産馬あるいは大規模経営産駒に対抗する競走馬を生産していくため、必要な技術講習などを実施し、先進的な飼養管理などの技術向上を図ります。【②～④】

3 既往負債により経営が困難な状況にある生産者の借入償還不能額について、長期低利資金の借換えを実施しながら、経営改善計画に基づく経営安定化を図ります。【⑤】

4 農家経営の安定化を図るため、肉用牛や施設園芸などの作目との複合化あるいは経営転換を推進します。【⑥】

5 軽種馬生産者各々では解決できない経営環境における様々な課題について、日高軽種馬振興対策推進協議会をはじめとする団体組織や生産者団体との連携・協力を図り、課題解決に努めます。【⑦～⑮】

### 2. 北海道競馬存続運動の推進

1 道営競馬存続のために、日高軽種馬振興対策推進協議会が実施する売上増進対策事業に対する支援をします。【⑯⑰】

2 生産者団体をはじめとする関係団体との連携・協力を図り、協賛競走の実施、場外発売所「アイバ浦河」を活用した集客イベントの開催など、馬産地としての売上増進に努めます。【⑱⑲】

## 活力を生み出すまちづくり

### ○酪農・肉畜

**1** 乳質の改善については、地域一丸となった取り組みが必要なことから、振興会を主体とした対策チームによる取り組みを推進します。【①】

**2** 生産性の向上と収支の安定化を図るため、乳牛検定データを活用した経営分析は最も効果的であることから、乳検事業の推進、加入促進を図ります。【①～③】

**3** 労働力の軽減、休日の確保のため、ヘルパー事業の活用を支援し、ゆとりある酪農経営を推進します。【④】

**4** 繁殖改良を行う育種価データ取得のため、また地域ブランドの確立を図るため、肥育取り組みの拡大による地域内一貫生産体制を推進します。【⑤】

**5** 粗飼料を主体とした飼料給与、飼料畑の確保、公共牧野の有効活用などにより低コスト生産への取り組みを推進するとともに、優良繁殖後継牛の自家保留を奨励し、積極的な改良増殖を推進します。【①、⑥～⑨】

**6** 新規肉用牛生産者の飼養管理技術の向上を図るため、関係機関との連携による飼養管理講習会の開催などによる技術普及事業を推進します。【②】

### ○耕種

**1** 地域振興作物としての「いちご」の産地を形成するため、専門指導員による栽培技術指導を推進するとともに、試験栽培を実施し地域にあった品種の選定、栽培形態の確立に努めます。また、共同出荷体制の整備による労働コストの低減を図り、作付面積の拡大を目指します。【①～⑦】

**2** 地域で豊富に存在する馬糞堆肥を活用したアスパラガス生産は、いちご生産とともに本町の野菜生産の柱となることが期待されることから、その普及拡大を目指し苗の購入費を支援するとともに、関係機関と連携を図り栽培技術の向上、有機質の土作りを推進します。【①～④、⑧⑨】

**3** 花卉生産は、三石ブランドとの共同出荷を基本に作付面積の拡大を図るとともに、関係機関と連携した栽培技術指導、土壌改良などの土作りを推進し、安定的な生産・出荷体制の維持に努めます。【①～④、⑧⑩】

## ■実施事業

### ○農業構造

- ①経営改善センターへの協力
- ②後継者育成事業（4Hクラブ活動補助金）
- ③農業経営基盤強化資金利子補給
- ④研修制度の充実
- ⑤農業関係資金制度の有効活用
- ⑥農業改善促進資金
- ⑦新規就農者の支援
- ⑧新規就農支援センター（新規）
- ⑨技術指導員招聘（新規）
- ⑩道営中山間地域総合整備事業（新規）
- ⑪小規模土地改良事業
- ⑫国営明渠排水路管理費補助
- ⑬道営畑総事業償還補助金
- ⑭道営担い手育成畑総事業償還補助金
- ⑮団体営土地総事業償還補助金
- ⑯農地・水・農村環境向上対策事業（新規）
- ⑰農業用廃プラスチックのリサイクルへの取り組み（新規）
- ⑱学校給食への地場産米の導入（新規）
- ⑲結婚報償金

### ○軽種馬

- ①軽種馬経営構造改革推進事業（新規）
- ②診療体制の充実
- ③研修会・講習会の開催
- ④強い馬づくりのための技術普及事業（新規）
- ⑤軽種馬経営強化改善資金利子助成事業（新規）
- ⑥軽種馬生産等複合・転換対策事業（新規）
- ⑦浦河町軽種馬振興対策推進協議会補助金
- ⑧クラシックレース等優勝馬生産牧場報償など
- ⑨予防接種事業
- ⑩優良種牡馬の導入の要請活動
- ⑪交配料の軽減の要請活動
- ⑫不採算繁殖牝馬の早期更新や淘汰の推進
- ⑬浦河産馬流通促進資金



- ⑭生産馬の販路拡大の研究
- ⑮浦河町軽種馬ファームヘルパー利用組合補助金
- ⑯ホッカイドウ競馬特別レース附加賞
- ⑰北海道競馬運営改善事業
- ⑱北海道競馬存続運動の推進
- ⑲道営競馬浦河ファンクラブとの連携

### ○酪農・肉畜

- ①第4次浦河町酪農、肉用牛近代化計画の推進
- ②飼養管理技術の向上
- ③乳牛検定組合の活動支援（乳牛検定事業補助金）
- ④酪農ヘルパー事業促進補助金
- ⑤肉用牛生産地域内一貫経営体制確立（新規）
- ⑥飼料の自給率の向上
- ⑦公共牧野の有効活用
- ⑧飼料畑の確保
- ⑨優良繁殖後継牛奨励事業補助金

### ○耕種

- ①土壌改良等の指導誘導
- ②施設園芸用ハウス設置事業補助金
- ③栽培技術の向上
- ④肥培管理等の適正化
- ⑤技術指導員招聘（再掲）
- ⑥いちご共同出荷施設整備事業（新規H24以降）
- ⑦いちごの産地化へ向けた取り組み（新規）
- ⑧有機質の土づくりの推進
- ⑨アスパラ作付奨励事業（新規）
- ⑩三石ブランドとの連携